

# 四日市市総合治水対策協議会 第二回協議会 議 事 録

日 時	2008年 1月 31日 (木)	自 14:00～至 16:30
出席者	別紙のとおり (委員欠席: 宮田昌一副会長、岡田旭郎委員、久世憲志委員)	
場 所	上下水道局 3階 第3会議室	記録作成者 事務局 承認
議 事 内 容	(1) 総合治水対策の理念の確認 (5) 総合治水対策の普及に向けて	
	(2) 計画目標について (6) 次回に向けて	
	(3) 雨水流出抑制施策の適用性	
	(4) 雨水流出抑制施策の効果検証	
資 料	・ 第一回協議会議事録、ご質問・ご要望への対応方針	
	・ 第二回協議会資料	
	・ スライド資料	
	・ 朝日新聞 2008年1月30日夕刊「環境エコロジー」(栗原副会長提供)	
打 合 せ 事 項	対 策 ・ 合 意 事 項 等	
【事務局連絡】	⇒事務局(矢田) ・ 欠席者の確認 ・ 協議会の公開 (傍聴者1名)	
【開会】	⇒木本会長 ・ 配布資料の確認	
【第一回協議会議事確認】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第一回議事録・質問等への対応方針について、事務局(矢田)より説明</li> <li>・ 各委員からの異議は無く、第一回議事録が確定</li> <li>・ 第一回議事録については、すでにホームページで公開済みの第一回協議会資料とともに公開することを確認</li> </ul>	
<b>【議 事】</b> (1) 総合治水対策の理念の確認 (2) 計画目標について  <(1)～(2)への質疑・意見等>	議事(1)～(2)について事務局(矢田)より説明  ■栗原副会長 ・ 四日市市では平成13年に、総合治水対策計画を策定したが、十分な成果を実現していない。そこで、今回のバージョンアップを行うことになったのだが、もう一度「総合」の意味を整理する必要がある。総合の意味には、「排水する+貯める・浸み込ます」「ハード対策+ソフト対策」「公助+共助+自助」「あらゆる分野の動員」のような意味がある。 ・ 説明では、公が行うことを「河川」「下水道」のみで捉えているように聞こえるが、もっと幅広い分野で捉えるべき。例えば、「道路での浸透」「公共施設への貯留」のように、公が所管するあらゆる部門を動員して率先して取り組む姿勢を示すことにより、民への取り組みの普及が期待できるようになるのではないかと。各々の部局が何をやるのかを明確化し示して欲しい。 ⇒事務局(矢田) ・ 第三回協議会に向けて、道路、公園、ため池等の各部局が何をを行うことができるのかを幅広く検討し、結果をご報告する予定です。	

打合せ事項	対策・合意事項等
<p>(3) 雨水流出抑制施策の適用性 (4) 雨水流出抑制施策の効果検証</p> <p>休憩 (10分)</p> <p>&lt;(3)~(4)への質疑・意見等&gt;</p>	<p>⇒事務局(下田)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在も、各々の事業のなかで総合治水対策に取り組むことを意識付けることを目的に、「チェックシート」を作成し市庁内において運用している。</li> <li>・しかし、取り組みスケジュールなどを構築していないため、具体化の点で弱みがある。今後、充実させていきたいと考えている。</li> </ul> <p>⇒木本会長</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・協議会資料 p6 の体系図を具体的に書き直すなどの方法はないか？</li> </ul> <p>⇒栗原副会長</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・例えば、図中「公共施設の改善活用」のような言葉は漠然としている。具体的に「道路で透水性舗装を普及させる」「〇年までに〇ha 行う」等のような書き方にするなど、体系図の見直しも検討すべきである。</li> </ul> <p>⇒事務局(矢田)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的に行われているものの、それが一般に認知されていないところもある。大きな体系の中にも具体的に記載できるようにしたい。</li> </ul> <p>⇒塚田委員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体化しようとする場合には、行政のなかでの位置づけが必要となる。現在、平成 19~21 年を対象とした総合計画があり、平成 22 年度には新たな総合計画がつけられる。この中に総合治水を位置づけていくことを考えたい。</li> </ul> <p>⇒木本会長</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民の方に知っていただくことが重要なため、できる限りわかりやすく表現すべき。</li> </ul> <p>議事 (3) ~ (4) について事務局(矢田、NJS)より説明</p> <p>議事 (3) ~ (4) について事務局(NJS)より再度概要を説明</p> <p>■栗原副会長</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・p12 のオンサイト貯留の効果は、下流域に小さいながらも効果があるため表現を見直したほうがよい。</li> </ul> <p>■栗原副会長</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上流・下流、市街化区域・調整区域、A~F 地区で各戸貯留の整備に差をつけるか？</li> </ul> <p>⇒事務局(下田)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各戸貯留の整備に差はつけない。各戸貯留が有効であるということを検証した。</li> </ul> <p>⇒栗原副会長</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ベーシックな方策として全市域に浸透や貯留を行う場合、協議資料のような表現はしないほうがよい。全員が流出を促した加害者のような面があるので、皆で各戸貯留をするべきである。また、1/10 年確率で溢水量がどれだけではなく、治水安全度がどれだけ向上するか (1/5、1/10 年確率…) という表現にしたほうがよい。その結果、溢水量がどの程度で床上浸水は無くなる、または土のうを準備する必要があるというような形にしたほうがよい。</li> </ul>

打合せ事項	対策・合意事項等
	<p>⇒<b>事務局(NJS)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回は施策ごとの効果を見易くするために、1/10年確率で計算を行った。次回協議会で施策量を検討する場合には東海豪雨等を使用する。</li> </ul> <p>⇒<b>野村委員</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・呼び掛けだけでなく、実際に市が補助を出すような場合、より危険度の高い地域に優先度を設けてもよいのではないかと。</li> </ul> <p>⇒<b>事務局(矢田)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全域的に取り組んで行きたいと考えている。今回の検証では、地域ごとに特に効果のあるものを示しているが、それぞれの施策がどの地域においても効果があるということを強調したい。また、地域ごとに行政がどのような支援を行っていくか等も検討する。</li> </ul> <p>⇒<b>栗原副会長</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民に説明していく上で、資産価値があるかないか、上流・下流というような議論はしないほうがよい。超過豪雨であっても床上浸水しない、流出を促した皆で取り組むという説明のほうがよい。</li> </ul> <p>⇒<b>木本会長</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回は1/10年確率の計算モデルを構築したもので、次回超過豪雨等を検討すること。</li> </ul> <p>⇒<b>野村委員</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パワーポイント p12 の①②③は優先順位を表しているのか？優先順位により並べ替えることは可能か？</li> </ul> <p>⇒<b>事務局(NJS)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・優先順位ではない。施策の考え方によって何らかの指標を想定すれば優先順位を決めていくことも可能と考える。また、モデル地区の選定等にも使えると考える。</li> </ul> <p>■<b>齋藤委員</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遊水農地の指定はあるのか？資料では市街化区域内で宅地造成はしてはいけないと受けとれる。</li> </ul> <p>⇒<b>事務局(下田)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・周辺より地盤の低い農地の遊水機能をシミュレーションした。遊水農地の指定はない。例えば、豊田市等では嵩上げ抑制に助成金を支払う等の事例がある。</li> </ul> <p>⇒<b>事務局(川島)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人の財産をどう捉えるか、誘導策を今後どう作っていくか、規制をどのように考えていくかという点につなげていきたい。</li> <li>・優先順位の点について、今回の資料には費用対効果や総削減量で示しているが、時間軸の概念を入れていない。補助を行うにしても個人の財産の中で行ってもらうものをどう位置づけていくか、優先順位の中でも時間割が出てくる。</li> </ul> <p>⇒<b>塚田委員</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資産価値と土地利用の制度はリンクしている。生産緑地は30年間残すので問題ないが、現在、市の施策としては宅地化農地の生産緑地への振替は行っていないため、嵩上げ防止という表現は市の施策と矛盾する点があるため、検討して欲しい。</li> </ul>

打合せ事項	対策・合意事項等
<p>【事務局連絡】</p>	<p>⇒<b>齋藤委員</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遊水池の指定はあったのではないかと？遊水池の指定が開発のネックになっていると聞いたことがある。</li> </ul> <p>⇒<b>事務局(矢田)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝明川で霞堤の機能をもつ県河川が指定している区域がある。</li> </ul> <p>■<b>栗原副会長</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜ「総合治水」を行うのか、もう少し分かり易く整理する必要があるのではないかと？近年の集中豪雨が頻発している状況、開発もしくはそこに住んでいること自体が流出を促しているということ。例えば、p4の流出量の増加についても、四日市の実際の地域で10年前から現在への変化を示すことにより、個人の財産を出しても皆で取り組む必要があることを理解していただけるのではないかと？</li> <li>・p3でいきなり東海豪雨を出すのではなく、近年の降雨状況を示した上でその中の一つ上として東海豪雨もあるというような表現にしたほうがよいのでは？</li> </ul> <p>⇒<b>堀委員</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・H16年度に地震災害があったが、市民は自分の地域には起こらないだろうと思っていることが多い。学校雨水貯留や、便所の雨水再利用等の対策を、公共が率先して取り組まないと市民に理解してもらうのは難しいと考える。浄化槽の活用や、新築時には設置を義務付ける等が必要と考える。</li> </ul> <p>⇒<b>中嶋委員</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民にも「加害者」と認識してもらって啓発活動が大事である。身近でできることを意識させることが大切である。</li> </ul> <p>⇒<b>木本会長</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・琵琶湖の生活排水の例もある。</li> </ul> <p>⇒<b>栗原副会長</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各個人が加害者であることを理解していただくことが重要である。市民・地域を行政でサポートする必要がある。</li> </ul> <p>議事（5）～（6）について事務局(矢田)より説明</p> <p>■<b>堀委員</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・温暖化とともに災害問題はまったなしの状況であるので早急に取り組む必要がある。</li> </ul> <p>■<b>木本会長</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局は、次回に向けて本日挙げた課題を整理すること。</li> </ul> <p>■<b>栗原副会長</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合治水の取り組みに紹介した朝日新聞の記事の提供。</li> </ul> <p>・次回協議会：3月下旬予定</p> <p style="text-align: center;">以 上</p>

## 四日市市総合治水対策協議会 第二回協議会 出席者名簿

	役 職 名	氏 名	備 考
会 長	川づくり会議みえ 顧問 豊かなむらづくり東海審査会 会長	木本 凱夫	
副会長	(財)下水道新技術推進機構 下水道新技術研究所長	栗原 秀人	
副会長	四日市市副市長	宮田 昌一	欠 席
委 員	市民代表	中嶋 敦子	
委 員	事業者代表	岡田 旭郎	欠 席
委 員	事業者代表	野村 愛一郎	
委 員	事業者代表	水谷 勝也	
委 員	自治会代表	三栗谷 祐三	
委 員	農業委員会委員代表	齋藤 祐次	
委 員	四日市市消防団代表	堀 善澄	
委 員	三重県県土整備部河川・砂防室長	久世 憲志	欠 席
委 員	都市整備部長	塚田 博	
委 員	上下水道局技術部長	村岡 英二	

